

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大牟田市立上内小学校（※正式名称を記載）

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒837-0902

E-mail kamiuchi-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 36 名 女子 31 名 合計 67 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自ら学び考える、心豊かでたくましく生きる上内っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、ESDの実践を通して「身近なふるさとの自然や環境、他の人と積極的に関わりながら環境保全や福祉を中心に、実践的に取り組む態度を養い、持続可能な社会の担い手を育成する。」という目標を設定した。

具体的には、体験、人材活用、自己の生き方をキーワードに、①地域の自然への関心を高め、上内のよさを発見する活動 ②障害を持つ方との交流を通して共生について考える活動 ③地域とつながる農業体験活動を行うようにした。

### ① 地域の自然への関心を高め、上内のよさを発見する活動

3年生は、地域を流れる岡川での生き物探しの体験活動をもとに、そこに生息する魚や水生動物の種類や名前、生態、特徴を調べたり、飼育したりした。また、水質や周囲の環境調査を行うことにより、環境の変化について調べ「岡川じまんポスター」を作成して、上内のよさを他へアピールを行った。

## ② 障害を持つ方との交流を通して共生について考える体験活動

4年生は、車いす体験や高齢者体験を通して、通常の生活との違いに関心を持ち、公共施設などの工夫について調べた。さらに、障害のある方や盲導犬との交流を通して、みんなが住みよい町にするには自分たちに何ができるのかについて学習した。さらに、学んだことを他学年の児童や保護者へクイズ形式にして発表した。

## ③ 地域とつながる農業体験活動

5・6年生は、地域の方に教えてもらいながら米作りを行った。特に、今年度は苗作りを体験したり、収穫目前でのウンカによる被害に遭ったり、米作りの大変さを味わった。さらに、収穫した米を袋詰めして道の駅で販売し、その収益金を以前から交流のある気仙沼の小学校へ寄贈した。

また、活動の締めくくりとして、お世話になった地域の皆さんをお招きし、感謝祭を行った。わらの生かし方を教えてもらったり、それを生かしたしめ縄づくりを体験したりした。最後に、収穫したお米でおにぎりを作って一緒に食べたり、お世話になった方々への感謝を伝える式を行ったりした。

①上内のよさを発見する活動



②共生について考える体験活動



③地域とつながる農業体験活動



③地域とつながる農業体験活動



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ユネスコ・スクールESDアシストプロジェクト (ウェブサイト) ユネスコスクール公式ウェブサイト ESD持続開発可能なための教育 (ウェブサイト) 他
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

児童の実態や校区の特徴をもとに、児童が興味・関心を持って取り組みそうな素材をピックアップしている。その中で、ESDでめざす資質・能力と考え合わせて教材化し、児童の主体性を重視したカリキュラムを編成している。また、総合的な学習の時間を中心に生活科・国語科・社会科などに関連づけた横断的なカリキュラムを編成し、地域の人的・物的な資源を生かす教育活動を展開している。

そのほかにも、同じ活動を繰り返すのではなく毎年題材の適否や活動内容、育てたい資質・能力まで見直し、さらなる改善を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、ユネスコスクール担当者を校務分掌の中に位置づけ、教務主任と連携しながら活動している。内容は、主に研修会の実施やESDカレンダーの見直しなどを行っている。また、教頭は、地域人材の招致や交渉、活動資金の管理等の対外的な仕事を担当している。

指導体制としては、少人数の学校のため、学年によっては近接学年（主に5・6年）の担任同士で協力して行っている。活動内容等の見直しも担当者を中心に各学年で行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価では、教師が日常の児童の学習の様子から各種の資料を集め分析している。そして、めざす児童像に対して現時点での児童の到達状況を評価している。それらの評価を教師による自己評価にいくつかの評価項目を設けて評価して集計し、全体的な傾向を明らかにしている。そこで明らかになった成果と課題を共通理解し、題材の適否や活動内容・方法、指導方法について話し合い、次の改善へ生かしている。

外部からの評価については、学校関係者評価委員会において取組指標や成果指標等を公表し、それに対する自己評価や改善計画等を説明し、ご意見を頂き、次の改善へ役立てている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校での取組については、ホームページにおける掲示板やメール配信、学校だより等で発信している。また、児童は、地域や保護者に向けて自分たちが学んだことを発表会や収穫祭などの機会を捉えて随時発表している。そこから得られた賞賛や励ましの声は児童の意欲を高めることにつながった。また、本校のユネスコスクールとしての活動の意義を、校長が機会を捉えて保護者や地域に説明することにより、持続可能な社会づくりに貢献する教育の大切さに賛同する声が各方面から聞かれるようになってきた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校は、児童数が少なく学校行事等を自校のみで実施することが困難な場合がある。そのため、校区のまちづくり協議会や上内農地水協議会などの諸団体協力を仰ぎながら諸活動を行っている。また、そうした団体や地域の方、保護者が児童たちの活動をまとめた発表の受け手となって下さっている。

そのほかにも、職員は、ESDに関する全国大会や各種の研修会に参加し、そこで学んだいろいろな取組の情報等を他の職員に伝えている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

5・6年生は地域の団体に協力をして頂き、米作りを行っている。内容は、苗作りから収穫まで行い、最後は、お米を袋詰めしてメッセージを添え、校区にある道の駅で販売する。さらに、売り上げや一般の人から頂いた寄付金を、東日本大震災で被害を受けた気仙沼市の小原木小学校に寄贈している。そのほかにも、職員は、市内で行われるユネスコスクール子どもサミットや各種の研修会で市内外のいろいろな実践に触れる機会を持っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

ESDの視点に立った能力・態度の面では、本年度特に、「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「つながりを尊重する態度」が育成された。具体的には、5・6年の児童は、上内の主な産業である米作りを体験したことにより、昔から米作りに携わってきた人たちの苦労や工夫を知ることができた。また、3年の児童は、校区の自然の中で様々な体験活動をしたことにより、自分たちの住む上内に対する愛着が増した。どの学年の児童も活動の中で多くの地域の方と触れ合うことができた。また、地域の方も学校に対する親しみが増したようである。

教員も決められた教科書で教えるのではなく、題材の選定から指導内容、指導方法まで自分で工夫する必要がある。時間がかかるそうした事前準備から、他団体やG.Tとの交渉等をするを通して、学習全体のマネジメント力がついていった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 1年生：ひとつぶのたねから  
※ 地域の方に教えてもらって野菜作りやお芋の栽培
- 2年生：おいしい野菜を育てよう  
※ 地域の方に教えてもらって野菜作りやお芋の栽培
- 3年生：岡川を調べよう 上内よかところ見つけ隊  
※ 地域の方に教えてもらって生き物探しや飼育、校区探検
- 4年生：共に生きる 自分のしあわせ みんなのしあわせ  
※ 視覚障害者の方との交流
- 5・6年生：米作りから学ぼう  
※ 上内農地水委員会のみなさんから指導してもらって米作り  
※ 栽培したお米を道の駅の販売し、収益金を交流校へ寄贈